

施設イチゴの生産安定のための冷却技術

【背景と目的】

近年、イチゴの花芽分化期にあたる9月の記録的な猛暑により、花芽分化に遅延が生じ、年内に収穫できないことが問題になっている。そこで、育苗期及び定植初期の培地冷却などの冷却システムを構築し、花芽分化の遅延を回避することで都内のイチゴの生産安定を目指す。

【研究概要】

低温により花芽分化する性質を利用した冷却技術を検討し、育苗期及び定植初期の冷却処理が開花や収穫開始に及ぼす影響を明らかにする。さらに、これらの冷却技術を組み合わせて、都内の生産規模に見合う冷却システムを構築し、施設イチゴの生産安定化を図る。

（1）育苗ベンチの冷却技術

育苗期における育苗ポットの気化冷却（透水性ポット利用など）及び育苗ハウスの暑熱対策について検討する。

（2）高設ベンチの冷却技術

定植初期における高設ベンチの培地気化冷却及び冷水チューブによるクラウンや根系の冷却効果について検討する。

（3）コスト評価

時期別の収量と販売価格による粗収益と設置及び運転費用などのコストを算出して、その費用対効果を試算する。